

温泉街の地域連携



9つの事例集

ONSEN TOWN Regional Cooperation

温泉は外国人も憧れる日本の文化。ひとつの宿に籠るのも良いけれど、まちに浴衣で出かけるのも温泉旅の醍醐味。湯めぐりしながら食べ歩いていると、地域のひとからおススメスポットを紹介されたりするものです。温泉街そのものを楽しめる、地域連携事例をご紹介します。



国土交通省
観光庁

宿泊施設の地域連携に
関する調査事業

温泉街の地域連携9つの事例集

ONSEN TOWN Regional Cooperation



北海道

P01 ニセコ

泊食分離・湯めぐり

北海道

P02 ぬかびら源泉郷

泊食分離・湯めぐり・地域連携

秋田県

P04 男鹿温泉郷

湯めぐり・地域連携

長野県

P05 野沢温泉

泊食分離・湯めぐり

群馬県

P06 四万温泉

泊食分離・地域連携

岐阜県

P10 下呂温泉

共同購買・地域連携

長野県

P08 下諏訪温泉

泊食分離・湯めぐり・地域連携

愛知県

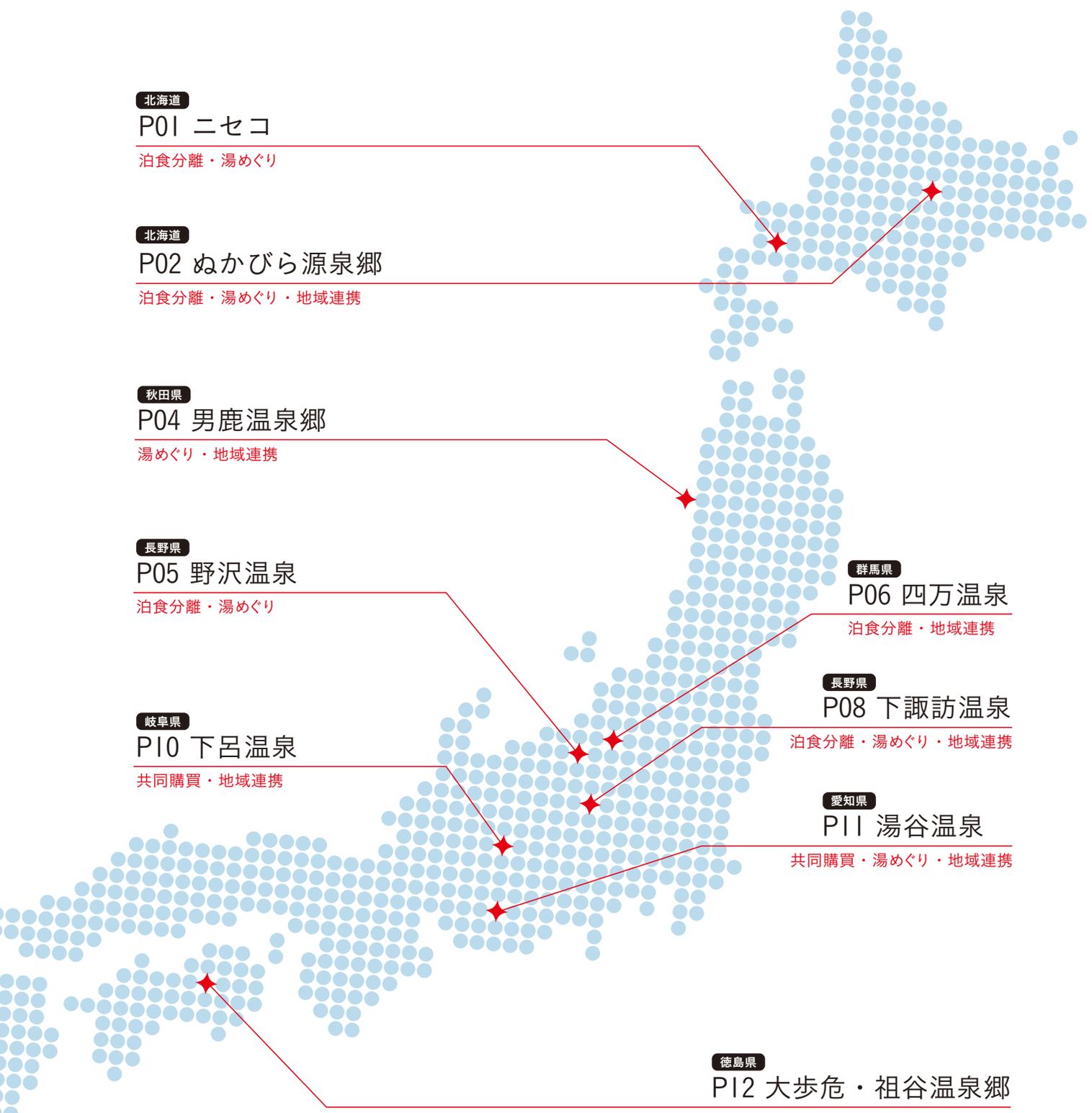
P11 湯谷温泉

共同購買・湯めぐり・地域連携

徳島県

P12 大歩危・祖谷温泉郷

共同購買・地域連携





泊食分離 ■ 湯めぐり

ニセコ観光圏（ニセコ町、倶知安町、蘭越町）で連携プロモーション。広域連携の湯めぐりで通年楽しめるリゾート街へ。

ニセコ

国内におけるインバウンド観光の先駆けであるニセコ。アクティビティの充実やリゾート化が進み、エリアによって客層や宿泊形態に違いがある。また、冬の盛況とは裏腹に夏のプロモーションをどう進めるのか。ニセコ温泉郷の湯めぐりと地域間の連携を通し、年間を通じて観光客誘致を目指す。

地域●北海道 **所在地**●一般社団法人 ニセコプロモーションボード:本社 〒044-2278 北海道虻田郡倶知安町字樺山41-5 サンスポーツランドくっちゃん内
宿泊施設数(収容定員数)●ヒラフエリア:381軒(9,875名)/HANAZONOエリア:4軒(369名)/東山エリア:12軒(826名)/アンヌブリエリア:46軒(2,840名)
URL●<http://www.nisekotourism.com>(ニセコプロモーションボード)



泊食分離

湯めぐり周遊バスの時刻表の裏に飲食店情報を記載している。リゾート地区から市街地の飲食店へ回遊をねらう。

冬期間ニセコ町で運行する湯めぐり周遊バス時刻表の裏に、長期滞在者向けにバス停付近の飲食店情報を記載。英語版も作成し、ニセコエリアの泊食分離を促す。また、一般社団法人NPB(ニセコプロモーションボード)が倶知安町、ニセコ町、蘭越町を併せたエリア情報を整備、日英併記の広域連携の情報発信を担っている。



湯めぐり

有効期間180日の「湯めぐりパス」を提供。冬も夏もニセコに足を運んでもらう仕組みだ。

湯めぐりは広域(ニセコ町、倶知安町、蘭越町、岩内町、寿都町、黒松内町、真狩村、島牧村)で進めている。その中の各温泉施設を2グループ化(入浴料金¥600以下を赤、¥700以上を青)し、グループ内で3回まで利用可能なカードを販売している。赤が¥1,440。青が¥1,930。両方2回ずつが¥2,160となっている。有効期間は180日に設定し、ニセコに何度も足を運んでもらうための工夫を凝らす。



TOPIC : ゴリラマーケット



倶知安町ヒラフにあるゴリラマーケット。長期滞在しながらキッチン付のコンドミニアムを利用する訪日外国人や、素泊まりの宿泊者向けに、料理の素材や調味料、酒類を販売するマーケットを展開。棚にないものは3日以内に手配する。店員はもちろん英語対応が可能だ。イギリス人オーナーが外国人のニーズに合った商品を揃えており、まるで海外のような雰囲気が漂う。店名は、草食で家族思いのゴリラをモチーフにネーミングしたそうだ。



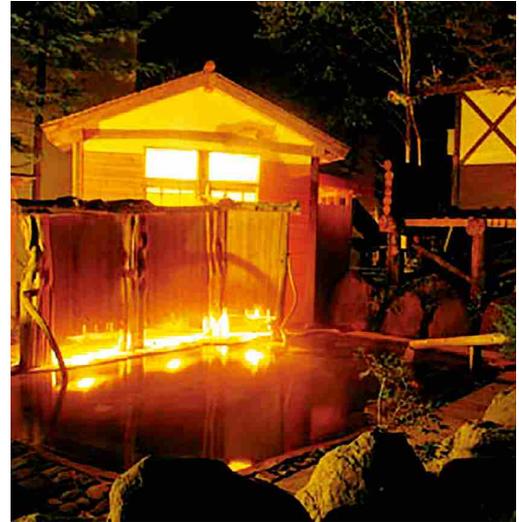
泊食分離 ■ 湯めぐり ■ 地域連携

小さな源泉郷そのものを宿に。
食や湯をめぐる連携や、行政と魅力向上に取り組む。

ぬかびら源泉郷

かつては十勝の奥座敷として賑わった。店が減り、鉄道も廃線。現在は9軒の宿泊施設と数軒の飲食店が温泉街を形成している。平成12年から泊食分離に取り組み、なおも試行錯誤中。町と協力して山紅葉を植え、今や秋の予約が難しい温泉街となっている。さらに町ではDMOに向けた組織を立ち上げ、新たな魅力づくりを進める。

地域●北海道 所在地●上士幌町観光協会：〒080-1492 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線238番地(上士幌町役場内)
宿泊施設数(客室数、収容定員数)●9軒(客室数160室、定員550名)
URL●<https://kamishihoro.info/>(上士幌町観光協会)



泊食分離

他施設の宿泊者に向けて「味めぐり」を提供。
連携している旅館の食事を楽しめる。

主に連泊客や、食事を提供していない宿の宿泊者が、他の宿の食事や飲食店を自由に選択できる仕組み。宿側に手間がかかるわけではなく、多忙な時期を除けばいつでも受け入れられることから、ぬかびら源泉郷では「味めぐり」として取り組んだ。進めるうえで、各宿泊施設の考え方や、飲食店の定休日によって提供が難しいこと、朝食営業をしていないなどの理由で、仕組みを見直す必要性が出てきたため、現在は連携可能な宿同士で「味めぐり」を継続して提供している。連携をする施設同士が無理せず続けられる範囲で、トライアンドエラーを行い改善していくことが大切という姿勢。また、味めぐり以外でも、宿によっては2食付のほかに夕食付または朝食付を選ぶことができるので、飲食店を利用することも可能である。



TOPIC：中村屋



糠平温泉中村屋では、チェックイン時に自然ガイドツアーや、宿を拠点に楽しめるスポットを紹介してくれる。館内は遊び心満載で、翌朝にははぼりたての牛乳が客室に届く。アメニティや便利グッズが揃う部屋「エゾリスの穴」は必見。悪天候時に宿で“お籠り”を楽しんでもらえるおもてなしだ。他の宿の宿泊客の温泉入浴や食事を受け入れている。食材は自ら地域で仕入れ、売店でも販売するなど、地域をまるごと楽しめる宿。



歴史と伝統を守りながら、時代とともに変化をつづける。

男鹿温泉郷

〈おがおんせんきょう〉

交流会館五風の周りを7つの温泉施設が取り巻く。かつては団体客の受け入れが多かったが、近年は、個人旅行者や、台湾を中心とした外国人観光客が増え、パーソナルな観光にも寄り添う温泉郷へと変化している。4月～11月の期間は、なまはげ太鼓ライブを楽しみに来る観光客も多く、リピーターが多いことも特徴である。

地域●秋田県 所在地●〒010-0687 秋田県男鹿市北浦湯本字草木原21-2
宿泊施設数●7軒
URL●<http://e-ogaonsen.com/outline> (男鹿温泉郷協同組合)



湯めぐり

温泉郷内7施設のうち3施設をめぐることができ、木彫りのなまはげ包丁が湯めぐりの記念品。

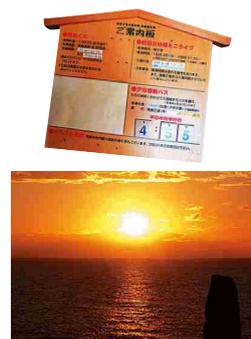
宿泊客を対象とした湯めぐりは、宿泊する施設を含めた3つの施設での入浴が可能だ。なかでも、元湯雄山閣の温泉は、温泉の噴き出し口がなまはげの顔になっており、迫力満点である。また、交流会館五風には、無料の足湯スポットが併設されており、休憩ポイントとなっている。



地域連携

地元で、そして秋田県で守られるなまはげの伝統は日本のみならず、世界へ広がりみせる。

交流会館五風の開館を契機に、地域で力を合わせる機運が高まった。現在は温泉郷の各施設が協力し、乗り合いタクシーの運行をはじめ、夕日感動バス、あじさい寺朝ツアーなど、男鹿温泉郷で1日を過ごすためのプラン提供に力を入れる。温泉郷協同組合を中心に、なまはげ文化で栄える温泉郷の発展に知恵をしぼる。



TOPIC：なまはげ



今では全国的に知られるなまはげは、平成30年度11月以降にユネスコ無形遺産認定の予定。男鹿地域の伝統や文化などが、今も人々を魅了するのは、人から人へと紡がれる郷土愛と郷土教育の賜物だ。なまはげ太鼓ライブパフォーマーの多くは20～30代が中心であり、20人近くの若者が所属する。また、10年程前にスタートした男鹿ロックフェスティバルも男鹿地域を盛り上げる取り組みのひとつで、観光協会や宿泊施設などと連携し、フェス来場者が温泉郷に流れる仕組みづくりに取り組む。





泊食分離 ■ 湯めぐり

観光客に寄り添うおもてなしと、
地域住民の協力で古き良き温泉郷の姿を守る。

野沢温泉

(のざわおんせん)

江戸時代から続く温泉街では、宿は宿、食事処は食事処との考え
方とスタイルが根強く残り、地域全体で宿泊客を受け入れる。すぐ近くに
スキー場があることで、外国人観光客が年々増加、野沢温泉を拠点
に周辺地域へ移動する人も多い。近年は、さまざまなアクティビティを
提供し、宿泊期間の多様な過ごし方を提案している。

地域 ● 長野県 所在地 ● 野沢温泉観光協会: 千389-2502 長野県下高井郡野沢温泉村豊郷9780-4/野沢温泉
旅館組合: 千389-2502 長野県下高井郡野沢温泉村豊郷9521 宿泊施設数 ● 210軒(野沢温泉観光協会)・22軒(野
沢温泉旅館組合) URL ● <http://nozawakanko.jp/>(野沢温泉観光協会)・<http://nozawa.jp/>(野沢温泉旅館組合)



泊食分離

宿が宿泊客を囲い込まず、
飲食店や他宿泊施設で食
事ができるなど、多様なス
タイルを提供する。

スキーを目的とした観光客が多い野沢温
泉では、長期滞在や連泊傾向が高く、近
年は多様な宿泊スタイルが求められてい
るため、夕食は飲食店でとるだけではな
く、ほかの宿泊施設でとることができるよ
うにしている。このような柔軟な対応は、
宿同士のつながりが強く地域全体でお客
さんをもてなす昔からのやり方だ。



湯めぐり

集印めぐりや外湯めぐり、
足湯めぐりなど、まち全
体を楽しむ仕掛けづくりに
取り組む。

まち全体を楽しむ仕掛けとして、集印帳を片手
に集印めぐりをはじめ、共同浴場や足湯、神社
などのポイントをめぐる。集印めぐりは温泉街に
27ヶ所。外湯は13ヶ所あり、地域住民の協力で
守られている。訪日外国人観光客の利用も多い
が、英語の入浴案内が各共同浴場に設置され
ており、マナーを守って住民との交流を楽しむ。



TOPIC : インバウンド



近年は、オーストラリアを中心とした訪日外国人観光客が増え、今日で
はスキーシーズン中の約3割が訪日外国人観光客である。宿泊施設や
住民の英語対応が充実する一方で、まち全体をグローバルイズしすぎない、
日本らしさを残すことに配慮しており、リアルな日本文化に触れたい
外国人が多く訪れる。最近では、国内外からの移住者が少しずつ増え、
これまで観光客として訪れていた外国人が3階建てのビルをリノベー
ションして飲食店をスタートするなど、野沢温泉に新しい風を吹かせる。



泊食分離 ■ 地域連携

一山一家で観光客をもてなし、一山一家で人材育成。

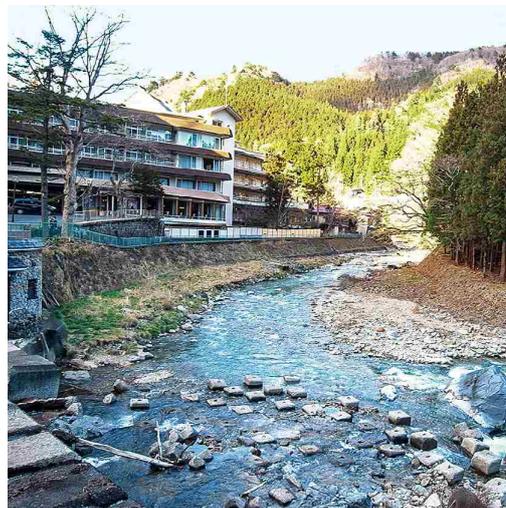
case 05

四万温泉

〈しまおんせん〉

上信越国立公園内にある四万温泉には、豊かな自然と温泉の安らぎを求める人をはじめ、日本各地の温泉を回って四万温泉にたどり着く人も多い。奥四万湖や四万川の美しい青色は「四万ブルー」とも呼ばれ、その美しさが観光客を魅了するだけではなく、カヌーやキャニオニングなど、さまざまなアクティビティの拠点となっている。

地域●群馬県 所在地●四万温泉協会:〒377-0601 群馬県吾妻郡中之条町大字四万4379 宿泊施設数●35軒
URL●<http://shimaonsen.com/> (四万温泉協会)



泊食分離

宿泊客が自分の宿泊スタイルを選択できるよう、地域全体で多様な選択肢の提供に力を入れる。

1〜2泊の宿泊が多い四万温泉では、旅館で食事をとるスタイルが大半だが、近年、宿泊客のニーズの多様化や連泊への対応を進めている。たむら旅館が経営する四万グランドホテルでは、夕食をバイキングで提供しているため、個人が夕食のメニューを自由に選択することができる。さらに、客室数の少ない旅館では連泊の対応が難いため、宿泊客の夕食の選択肢を増やすことを目的に、ほかの旅館から夕食のみの受け入れも始めている。また、2018年には、温泉とグランピングを楽しめる施設「Shimablue」がオープンするなど、現在7つの宿泊施設が泊食分離の体制整備を進めている。



TOPIC : インバウンド



近年四万温泉にもインバウンドの波が流れ込む。なかでも、四万温泉の入口に立地する柏屋旅館では、訪日外国人観光客の受け入れに積極的に取り組む。2014年に英語のホームページを充実させたことに加え、SNSでの投稿をお願いするカードを渡すなど、情報発信に特に力を入れる。



地域連携

一山一家プロジェクト：各旅館や商店などの新入社員を四万温泉全体でサポート。四万温泉を盛り上げる人材育成に取り組む。

観光業などの人材不足や離職率の高さが懸念されるなか、四万温泉協会では、平成26年度から「一山一家プロジェクト」と題して、四万温泉で働く人材の育成とサポートに取り組む。プロジェクトでは、新たに働き始める新入社員の合同入社式をはじめ、交流会やグループワーク、四万温泉のアクティビティ体験などを行う。社員自身が四万温泉のさまざまな魅力を体感することで、四万温泉を愛し、一緒に盛り上げる人材に育つことを目指す。また、地域全体で社員を育てることで、勤務先の垣根をこえた交流が社員のつながりを深めている。平成29年度には、冬でも四万温泉を楽しめるようにと、新入社員が企画した竹細工のイルミネーションの設置をクラウドファンディングで成功させるなど、地域内外からの注目度も高い。



地域連携

観光客が楽しめる環境づくりを四万温泉全体での協力により、足並みをそろえて進める。

地域全体を楽しんでもらう取り組みとして、6年ほど前にスイーツめぐりをスタートした。3ヶ月ごとにテーマが変わり、テーマごとに提供するスイーツを変える店もあれば同年同じスイーツを出す店もある。また、その日の営業は「ひとやすみ」の暖簾が合図であり、暖簾が掛かっていなければお休みと、協力内容について強制はしていない。四万温泉協会としては、毎年イベントを行い宿泊客に楽しんでもらうことを大切にしており、各商店には無理をせずに行える範囲で協力してもらうことが継続のポイントだという。2017年秋からは、地域全体で「四万温泉によろこば越してくださいました。」という歓迎と感謝の気持ちを伝えるため、全ての飲食店や旅館などが「スマイル四万」のバッジを付けるなど、地域全体の協力体制の充実を進めている。また、四万温泉協会が主体となり、地元バス会社と連携し東京からの直行バス「四万温泉号」などの運行や往復バスと宿泊をセットプランで提供するなど、お客さまに寄り添ったおもてなしを提供している。



TOPIC：中之条町観光協会

中之条町観光協会では、従来からの四万温泉の魅力発信に加え、四万温泉の付加価値づくりに力を入れる。地域のさまざまな人に注目してフリーペーパーで取り上げるなど、ひとつのストーリーを持たせるような新しい切り口でのPRを行う。また、従来商品の統一感を持たせたリパッケージによる地域全体としてのブランディングをはじめ、2年に1回の中之条ビエンナーレやヘルズリズムなど、新しい取り組みを進める。





泊食分離 ■ 湯めぐり ■ 地域連携

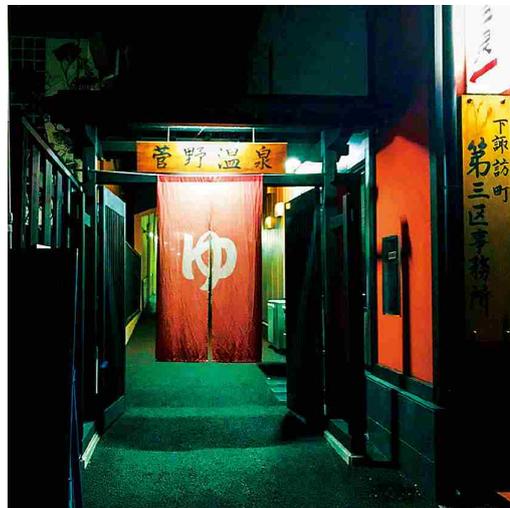
徒歩で温泉も食も楽しめる。フレンドリーな公衆浴場でのあいさつ文化や熱い湯が思い出に。

下諏訪温泉

〈しもすわおんせん〉

御柱で有名な諏訪大社の下社、春宮と秋宮があり、古くから宿場町として多くの商人や旅人のユートピアとなって栄えてきた。今でも、諏訪大社下社最古の木造建造物「下馬橋」が現存するなど、古い町並みや歴史情緒が息づくまちである。コンパクトで、ゆったりと歩いて周るのにちょうど良いまち。

地域●長野県 所在地●下諏訪町観光協会：〒393-0015 長野県諏訪郡下諏訪町 3289 URL●<https://shimosuwaonsen.jp>（下諏訪町観光協会）



泊食分離

宿(泊)と飲食店(食)が別々の場で楽しめる取り組みを進めている。

町内にゲストハウスができたことをきっかけに、需要を感じた旅館が素泊まりで外食できるようなプランも提供し始めた。また、飲食店側も朝7時から営業を始めたり、宿泊者限定の割引チケットを渡したりするなど、“泊”と“食”の各店舗が連携して相乗効果を生んでいる。

町内のゲストハウスの第一人者であるマサヤゲストハウスでは、エリックスキッチンと緩やかな連携が行われている。マサヤゲストハウスから10分足らずのところにあるエリックスキッチンの主人、エリックさんは、もともとマサヤゲストハウスのゲストだった。マサヤゲストハウスでは、このような町内にあるエリックスキッチンをはじめとする、おすすめのお店を紹介し、互いに協力・連携してさまざまな楽しみ方を来訪者へ伝えている。



TOPIC：マサヤゲストハウス



マサヤゲストハウスは、明治時代創業の老舗旅館「ますや旅館」の良いところを残しつつ、改装したゲストハウス。チェックイン時には、施設の説明だけでなく、周りの歩いていけるおすすめスポットなど、実際にスタッフが行ってみて良かったところ、宿だからこそ紹介できるローカルな場所を紹介してくれる。バーを併設しているリビングでは、スタッフ、宿泊客だけでなく、地元の人たちと触れ合える場として、来た人を温かく迎え入れる。

湯めぐり

地域文化に根付いた温泉を気軽に体験できる「三湯めぐり」を提供。

温泉めぐりを気軽に楽しんでもらうため、9ヶ所の公衆浴場のうち、3つを活用した「三湯めぐり」と、2軒の旅館を湯めぐりできる「ほんわかゆうゆう券」を提供しており、夫婦や家族、シニア世代に利用が多い。

下諏訪町は温泉が身近にあり、地元民からも愛されており、熱い湯として知られる歴史ある温泉である。町内には、公衆浴場が9ヶ所あり、¥230というリーズナブルな値段で入れる。9ヶ所それぞれ、特徴や楽しみ方が違うため、「湯めぐり」としての楽しみ方が成立している。また、「こんばんは」「おやすみなさい」など、互いにあいさつをする文化があり、地域の人と触れ合い、ローカルな体験や人の温かさに触れることができる。



地域連携

食べ歩きチケットが、観光客の滞在時間増加と地域の魅力アップにつながっている。旅館を活用したお試し住宅や、名物女将のご案内がユニーク。

「万治の食べ歩きチケット」を、個人観光客に¥500、団体観光客に¥300で販売している。観光客の滞在時間の増加を目的に開始したが、開始当初に比べ、飲食店や公衆浴場、土産物屋など、参加店舗のバリエーションが豊富になり、観光客の楽しみ方や歩き回る時間が増え、地域の魅力アップにもつながっている。

平成29年度には、下諏訪温泉旅館組合事務局を主体として、「しもすわ開運めぐり」が実施された。下諏訪には、諏訪大社下社のお膝元であることから、地元の人や旅人に親しまれる開運の場所がある。さまざまある開運スポットのうち、選りすぐりの6ヶ所①万治の石仏、②結びの杉、③かな焼き地藏尊、④児宝地藏尊、⑤子安社、⑥いいなり地藏尊を「開運スポット」と称し、まち歩きを楽しみながらお参りできる。下諏訪町がコンパクトなまちであることから、まち歩きがしやすく、まちのゆったりとした雰囲気を十分に楽しむことができる。

町では、移住希望者が下見などで町内の旅館に宿泊する場合、1人当たり1泊¥2,500を最大10泊分まで補助している。また、下諏訪温泉旅館組合女将の会では、中山道・下諏訪宿や諏訪大社を地元の名物女将が¥2,000でご案内している。



TOPIC：下諏訪移住交流スペース「ミーミーセンタースメバ」



下諏訪移住交流スペース「ミーミーセンタースメバ」は地域おこし協力隊を主体として、まちの魅力や観光情報、空き家物件情報まで、さまざまな情報発信の場、地元の人に相談できる交流の場として、活用されている。さらに、下諏訪を訪れた人が、移住者との交流会やイベントなどに参加できるコミュニティサロンとしての役割も備えており、観光だけでなく、下諏訪への移住や定着を考える人が、地元の人と一緒に利用できるのが魅力。





共同購買 ■ 地域連携

ガス事業をはじめとした「共同事業」の先進地。
徹底したデータ把握に基づくプロモーション戦略を推進。

下呂温泉

〈げろおんせん〉

日本三名泉の1つに数えられる、「開湯1200年」の歴史を持つ温泉地。観光経済新聞社「にっぽんの温泉100選」第2位(2017年度)。下呂温泉旅館協同組合が簡易ガス事業や共同購入事業に取り組んでおり、「共同事業」の先進地とされる。また、国内・国外ともに宿泊者数を伸ばす背景には、客観的なデータに基づくプロモーション戦略とスピード感のある取り組みがある。

地域●岐阜県 所在地●下呂温泉旅館協同組合(事務局):〒509-2207 岐阜県下呂市湯之島801-2 加盟旅館数●44旅館(平成28年4月現在)
URL●<http://www.gero-spa.or.jp/>(下呂温泉旅館協同組合)



共同購買

ガス管を温泉街全体に配置し、ガスの安定供給とコスト削減を実現。

温泉街全体にガス管を配置しガス供給を行う「簡易ガス事業」を実施。ガスの安定供給・各宿泊施設のコスト削減に寄与するほか、組合の経営安定にもつながっている。また、導管により55度の高温、良質な温泉の集中管理を行っているほか、固形燃料や箸、トイレ紙など、300種類にも及ぶ物資の一括仕入れに取り組む。また、漫画家の小島功氏によるイラストがデザインされた「下呂温泉みすと」も人気商品である。



地域連携

入湯税の用途について、官民での協議を経て決定。

環境衛生や消防、観光振興の目的で使用するよう定められている入湯税。下呂市では、その用途を観光振興に特化することを、観光事業関係者等との協議の末決定。官民が連携を図り、観光振興が進められている。



TOPIC：徹底したデータ把握



下呂温泉では、宿泊客に関する客観的なデータ把握と分析に基づくプロモーション戦略を、観光協会が主導して行っている。宿泊客がどこから来ているのか、アクセス手段は何かなどを月ごとに集計し、スピード感を持って戦略検討と事業展開を進めている。下呂で採れた食材を使用した料理やスイーツを紹介する「Gプロジェクト」も、アンケート調査により把握した食歩歩きへのニーズを捉え、事業化したものである。



共同購買 ■ 湯めぐり ■ 地域連携

若旦那をはじめ、地域で新しいことにチャレンジ。
奥三河の基地として魅力づくりに取り組む。

湯谷温泉

(ゆやおんせん)

1300年以上歴史を持つ湯谷温泉。鳳来峡の板敷川沿いに旅館が建ち並び、美しい景観との調和が見事。国の重要無形民俗文化財に指定されている奥三河の奇祭「花祭り」など歴史と文化に触れられる地域で、近年温泉街にはゲストハウスや無料で利用できる足湯が登場。今後は奥三河の基地として存在を発揮する。

地域●愛知県 所在地●奥三河 湯谷温泉:〒441-1631 愛知県新城市豊岡宇滝上11-11 URL●<http://www.yuya-spa.com/>(湯谷温泉発展会)



共同購買 湯めぐり

若旦那を中心とした湯谷温泉発展会が主体となり、地域振興に尽力。

湯谷温泉発展会主催で行われた湯めぐり総選挙は、お得な入浴券セットを購入すると6軒の旅館の温泉に入浴可能。宿が共同で湯谷温泉オリジナルの入浴剤を仕入れて販売。駅舎では若旦那自ら観光案内をするなどのおもてなしを展開中。



地域連携

スポーツイベントと宿泊施設の連携、地域産品のマルシェや朝市によって、地域に新たな活力を生み出している。

地形をいかしたトレイルランニングやロードバイクレースなど、スポーツイベントを毎年開催。地域内にはバイクスタンドを数ヶ所設置。訪れる観光客を積極的に受け入れ、新城市におけるスポーツツーリズムの発展に貢献している。宿泊施設とイベントの連携により、地域へ新たな活力を生み出している。また、駅前では、毎月朝市を開催している。



TOPIC : カフェ&ゲストハウス Hoo!Hoo!



奥三河を観光する際の拠点兼、起業家たちの活動拠点として、「カフェ&ゲストハウスHoo!Hoo!」をオープン。土日に開店するCafe & Barでは地酒の提供や、地域の特産品を販売するアンテナショップとして地域色を活かした空間を提供。また、大学の研究室としての活用や、三河山間地域の活性化事業を進める愛知県との事業において、起業に向けたセミナーを実施するなど、観光客以外の人も集える交流の場として、今後も幅広い活用を期待されている。



共同購買 ■ 地域連携

宿泊施設どうしの“仲の良さ”が、連携の基盤。
食材の仕入れや営業活動において協力関係を構築。

大歩危・祖谷温泉郷

〈おおぼけ・いやおんせんきょう〉

日本三大秘湯、そして日本三大秘境とも称される。平成12年に「大歩危・祖谷いってみる会(以下、いってみる会)」を組織し、「大歩危・祖谷温泉郷」として戦略的なプロモーションを開始。いってみる会は5つの温泉宿泊施設が加盟し、食材やアメニティなどの共同仕入れのほか、営業活動やイベント開催などで連携をしている。

地域●徳島県 所在地●大歩危・祖谷いってみる会(事務局):〒778-0102 徳島県三好市西祖谷山村善徳33-1(新祖谷温泉ホテルかずら橋内) 加盟施設数●5軒 URL●<http://www.oboke-iya.jp/> (大歩危・祖谷いってみる会)



共同購買

“いいものを安く”共同仕入れを実施。食材の調達も、地域密着の道の駅と連携。

“いいものを安く”の方針のもと、タオルや紙袋といった消耗品の仕入れ先を、いってみる会がコンペ形式により選定。デザインの統一やコスト削減に成功した。また、食材の調達も、いってみる会として交渉することで、地域の農産品の仕入れに強い道の駅との契約が可能となった。



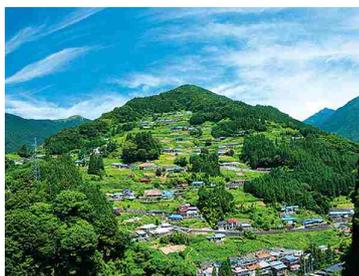
地域連携

地元中学生が、訪日外国人観光客への観光ガイドに取り組む。

欧米の訪日外国人観光客に対し、地元中学校と連携し中学生による英語での観光ガイドを実施。中学校のALTとの交流がきっかけとなり、連携が実現した。訪日外国人観光客にも好評で、温泉街、中学生と“三方よし”の取り組みに。中学生にとっては、ガイドを通じて地域を学ぶことにもつながっており、地域への愛着形成が“将来の温泉街の担い手”育成につながることも期待される。



TOPIC : 大歩危・祖谷の魅力～雲海、農泊、かかしの里～



大歩危・祖谷温泉郷の観光名所としては、祖谷のかずら橋や大歩危小歩危が有名だが、雲海を眺められる景観や、地域に根付く生活体験ができる農泊も魅力である。また、本来は野生の動物対策につくった多くのかかしが「かかしの里」として名所になっている。新祖谷温泉ホテルかずら橋でも、社長をモデルにしたかかしに出会うことができる。



温泉街の地域連携



泊食分離

旅館の料金形態の定番といえば、「1泊2食付」だが、最近では旅行の個人化、志向の多様化、連泊を望む訪日外国人観光客などのニーズに合わせ、ホテルのように素泊まりできる施設が増えつつある。安価にするためだけではなく、観光客に地域の食を自由に楽しんでもらえる取り組み。料理も含めて家族経営している宿や、周辺に外食できる飲食店がないなどの理由で泊食分離が困難な地域もある。

【総括】宿を利用する立場から考えると、料理が売りの宿の食事も、地元の人が食べているおいしいものも、「選べる自由」があるのは大変ありがたいもの。一度に回れないほどの飲食店を勧められると、次に来たときはあの店に行こうとリピートにつながる可能性もある。



共同購買

宿を運営するうえで必要な、シャンプー、タオル、紙袋などの消耗品・備品や食材。複数の宿泊施設による共同仕入れや組合による一括購入によって購買力が増し、コストの削減と高品質な商品の調達が可能となる。また、オリジナルの土産品を開発したり、共通のロゴマークを商品に付して販売したりするなど、温泉街のブランド化につながる例もある。

【総括】宿の料金や宿泊者層により、消耗品・備品の品質や単価を統一できないことも多い。だが、購買力が比較的弱い中小の宿泊施設にとって、連携によるコスト削減などメリットは大きいのではないかと。



湯めぐり

宿泊施設が連携し、観光客に複数の浴場を楽しんでもらうものや、地元の人が利用していた共同浴場を観光客にも開放して実施するものもある。「湯めぐり手形」のようなグッズの作成やスタンプラリーなど、利用者を楽しませる工夫を行う温泉街も多い。日帰り利用客が増えるというメリットはあるが、受け入れ側の対応が困難となるケースもあり、閑散期にのみ実施する、時間帯を区切るなど、各温泉街で工夫をしながら実施をしている。

【総括】利用する側としては、それぞれに特色ある浴場を複数楽しむことができる魅力的な取り組み。まちを歩いたり、滞在時間が増えたりするきっかけともなるため、受け入れ側の負担とならない持続可能な仕組みが求められそうだ。



地域連携

「なまはげ」「ワカサギ釣り」といった、その土地固有の自然・歴史・文化を体験できるプログラムの提供や、地元の中学校と連携した訪日外国人観光客向けの「中学生観光ガイド」、乗り合いタクシーの運行など、地域の特性を踏まえた取り組みが各所で行われている。

その土地だからこそ得られる特別な時間や体験、人との関わり合いが、観光客にとって大きな価値となっている。

【総括】連携がうまくいくための基盤には、良好な関係づくりがあるようだ。そして、各地域に根付く歴史・文化や、そこにある日常の暮らしを旅のコンテンツとして提供していくことが、今後も期待される。



温泉街の地域連携 9つの事例集



国土交通省
観光庁